

MRI 一問一答

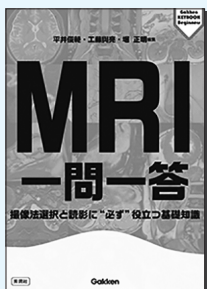
撮像法選択と読影に“必ず”役立つ基礎知識

編集：

平井俊範（熊本大学大学院生命科学研究部放射線診断学講座）

工藤與亮（北海道大学大学院医学研究院放射線科学分野
画像診断学教室）

堀 正明（東邦大学医療センター大森病院放射線科）



発行：Gakken

2024 年 6 月刊行

A5 判・368 ページ

定価：6,600 円（10%税込）

MRIの基礎と臨床をつなぐ待望の書が、平井俊範先生、工藤與亮先生、堀 正明先生の3名のMRI専門の日本を代表する教授陣の編集で、非常にコンパクトに整理された体裁で出版された。

MRIの基礎としては、堀教授の恩師である荒木 力先生（山梨大学名誉教授）の『決定版 MRI完全解説 第2版』（学研メディカル秀潤社、現 Gakken）や、百島祐貴先生、押尾晃一先生（慶應義塾大学）による『MRI from picture to proton, 3rd ed』（著者：Martin R. Prince, et al）の訳本『しっかり学べる！最新MRIスタンダード』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）があり、臨床としては分野別の多くの良書がある。しかし、その間をつなぐものと銘打った本はほとんどなかった。

MRIは撮像法のバリエーションが多く、ピッタリはまった撮像法が行われていれば、そのみで診断がつく場合も多く、適切な撮像法の選択はMRIの現場の醍醐味といえる。そのためには、撮像法の原理と基礎をある程度は知っており、かつ臨床のニーズを理解できる必要がある。

この『MRI一問一答』は、そのMRIの面白さを知り、日常臨床に役立てるための入門書としてお勧めできる。放射線診断医、診療放射線技師のみならず、MRIにかかわるすべての者にお勧めし、MRIのポテンシャルを感じてもらいたい。そして、MRIのポテンシャルをさらに広げる研究へも興味をもっていたき、基礎の良書にも挑戦し、さらなる研究の道へと進んでいただきたい。

この本は、3分の1が原理編、残りが部位ごとの臨床編に分けられ、一問一答形式で、撮像法選択と読影の基礎知識を中心に、部位によってはCTとの使い分けやレポートの必須項目、MRIの特定の疾患へのMRIの適応なども適宜加わり、日常臨床サイドからの発想での問題設定となり、各部位のMRIのニーズに合ったものとなっている。

この『MRI一問一答』は、日常臨床ですぐ役立つように、よく遭遇する疑問とその回答の形式となっており、撮像法の選択と解釈にすぐ役立つ、手ごろな入門書・リファレンスブックとして、大きさも良く、MRI室や、読影の机の上に置いて、大いに活躍すると思われる。

順天堂大学医学部放射線診断学
順天堂大学健康データサイエンス学部
青木茂樹